

▶お知らせ 2021年卒向けインターンシップ参加者募集中！

12月7日（土）

週刊東洋経済プラス | 四季報オンライン

トップ ビジネス 政治・経済 マーケット キャリア・教育 ライフ

自重

ビジネス ▶ 「合法薬物依存」の深い闇

## 薬剤師が見たデパス「気軽な処方」が招いた事態

過去には90日分540錠を1度に処方することも

[« 前ページ](#)

メディカルジャーナリズム勉強会

2019/12/06 5:40

シェア 304

ツイート

一覧

1

コメント

1

印刷

A

A

薬物乱用頭痛とは、簡単に言うと頭痛を改善するために服用する薬の回数や量、期間が徐々に増えていき、逆に脳が痛みに敏感になって頭痛の頻度が増え、薬の効果も悪くなる悪循環に陥ったもの。これはドラッグストアなどで販売されている一般用医薬品の頭痛薬などでも起こる現象で、薬物依存の一種として一部で社会問題化もしている。

このような危険もある中で、依存性があるデパス（エチゾラム）が含まれる処方を片頭痛で使うことに疑問を感じざるをえないという。さらに吉田氏は「そもそも薬理学的に見ても片頭痛にデパスを使う意味がわからない」と語る。

「不安や不眠でデパスを服用している患者さんは、デパスの依存性についても一定の認識があることも少なくありません。しかし、片頭痛で処方された複数の薬剤の中にデパスが交じっているような患者さんでは、そうした依存性の認識はまったくないことが多く、知らぬ間に依存になってしまう危険性があるのです」

吉田氏は現在の薬局を経営するようになってからも時折、この片頭痛でデパス（エチゾラム）の処方を受ける患者を見かけることがある。中には薬物乱用頭痛に至っている可能性が高い患者もおり、その可能性を伝え専門の頭痛外来の存在を伝えるなど対処しているという。

### 利点の多いデパス「気軽」な処方への疑い

薬剤師への取材からは、デパス（エチゾラム）の依存・乱用が起きた背景として、2016年に向精神薬の指定を受けるまで、「広い適応」「長く処方できる」などの利点があり、それゆえにいわば「気軽」な処方、時には薬理学的に考えて意味が不明な処方が行われたのではないか？という疑いが見えてきた。

そして向精神薬の指定後、そうした「気軽」な処方は減りつつあるものの、すでに長年デパス（エチゾラム）を服用し続けてきた高齢者の常用量依存が問題化しているとの指摘もあった。

今回は、デパス（エチゾラム）の問題を医師がどのように見ているのかを追う。

(取材・執筆：村上 和巳／ジャーナリスト)

Support by SlowNews

(第4回に続く)



コメント (1)

関連記事

合法的な薬物依存「デパス」の何とも複雑な事情

20年間「デパス」を飲み続ける彼女の切実な事情

あまりに危険な自撮りが招く最低最悪の結末

武蔵小杉をあざ笑う人々に映る深刻な社会分断

「Uber Eatsつけ麺事件」があぶり出した問題点

高畑淳子さんを責めても何も解決しない

トピックボード

AD



非効率な「から卒業す」



ふるさと絆 決済」広がる

犯収法改正で活用の幅が広がる「

仲よし夫婦が「毎年12月に習慣化

メルシャン「新ワイナリー」、熱烈

シニアの「生きるモチベーション」

ビジネスの人気記事

最新版「借金が多い企業」ランキングTOP500社

中部空港に「飛行機遊園地」が生まれた理由

いきなり!ステーキ、急失速に見た積極出店の罠

最新版!これが「金持ち企業トップ500社」だ

飛び交う手紙、通報も「べんてる争奪戦」の壮絶

日本人が驚く、米国発「新型デパート」の衝撃

連載一覧

トレンドライブラリー

AD